

甲南大学の英語はこう解く

(公募制推薦/一般選抜)

専修学校 夕陽丘予備校
英語科講師 大間 健弘

CONTENTS

【傾向と対策】

1	2	2
3	18	
4	20	
Let's try	32	
モチベアアップ編	40	
今からやること	41	
おすすめ演習題材	42	

🍏 傾向と対策 🍏

1 2 長文読解

解法

◇ (推薦) 所要時間は 1 30 分 2 15 分

or
1 25 分 2 20 分

◇ (一般) 所要時間は 1 35 分 2 20 分

or
1 30 分 2 25 分

◇ 読解に取りかかるまでの下ごしらえをしっかりと行う！

↓

◇ 先に **各設問のリード文** に目を通し、必要な場合は英文の段落番号の隣に設問のメモをしておく

◇ 最後に **テーマ・主題** を聞く設問がある場合には、**選択肢** も先に読んでおく

DETAILS

〈出題内容〉

① ②ともに説明文を題材にして、筆者が伝えようとしているメッセージや行間の意味を考えさせる。個別のパラグラフの内容を論理的・批判的に考察し理解する能力と、パラグラフごとの要点と相互間の論理関係、全体の構成を理解する能力を求められる。英文の語数は①が 800words 程度、②が 400words とされているが、時間配分を考慮すると、文章の大意を把握する力はもちろん、速読する力も問われていると考えた方がよい。本文の難易度は標準～やや難で、単語は少なくとも 1500words、高得点をとるには 2000words 覚えるべきだが、その一方で、設問のレベルは易しめで、内容をある程度把握しておけば解くことができるので、長文読解を中心に勉強し、長めの文章をざっと理解できる力を身に付けることが重要となる。一部、指示語の把握や下線部言い換え問題といった部分的な力を求める問題はあるが、一番求められているのは、文章全体の流れを把握し、解答に必要な箇所を特定することである。

〈対策〉

先に設問を読み、何が問われているのかを確認してから本文を読み進めれば、解答の根拠となる箇所を発見しやすくなり、効率良く問題を解くことが可能となる。文章全体の流れが理解できている事を前提とした問題が多く出題される。各パラグラフを読みながらメモを取り、文全体がどのように展開しているのか、大意を常に意識して読もう。選択肢のレベルは基本的に簡単だが、文章が長いことと、必ずしも設問の順番と本文の順番が一致するとは限らないため、根拠の箇所が探しにくいことがある。ただし、本文が読めているのに選択肢で迷うといった問題はほぼなく、根拠の位置を特定できれば簡単に解答できる。つまり、解答の根拠となる文を特定することが肝要である。

練習題材としては、センター試験の第6問（本試→追試）や同程度の長さの英文がよい。その後、理解しきるまで音読するといった作業を徹底し、読解力を鍛えよう。（p.42 参照）

《内容一致問題》

- ① (1) リード文から何を問われているのかが分かるもの
⇒ 該当箇所を探しながら読み進める。

(2) True or Not true 形式のもの

正攻法 ⇒ 本文をキリの良いところまで読んで選択肢を見て判断。

上級者 ⇒ 選択肢に先に目を通し、固有名詞、数字・数値、極端な表現、特徴的な表現をチェックし、本文を読みながら判断できるものはその都度判断していく。

※ 極端な表現は本文でも極端に述べられていないと選んではいけない。極端な表現とは具体的に、**only, alone, all, any, every, no, always, complete(ly)**, 複合関係詞, 最上級などである。

- ② ひっかけの選択肢には注意
⇒ ひっかけの選択肢にはパターンがある！

② ひっかけパターン一覧

- 【パターン①】 本文と同一語句を使う
- 【パターン②】 本文中の語句を強引につなぐ
- 【パターン③】 数量表現で紛らわしくする
- 【パターン④】 程度を操作する
- 【パターン⑤】 「時」をずらす
- 【パターン⑥】 比較の向きや対象を操作する
- 【パターン⑦】 因果関係を変える
- 【パターン⑧】 多義語を使う

【パターン①】 本文と同一語句を使う

入試問題の作成者が使う「手口」として最も多いと言っても過言ではないのが、誤りの選択肢を作成する際に「本文で使用されていた同一語句を使う」というものです。

ですから、今後は長文読解問題で、内容一致問題などを解く際、選択肢に本文と同一語句が含まれている場合は「あやしい」と疑ってかかるようにしましょう。なぜならば、それはたいてい「ひっかけ」の選択肢であることが多いからです。このようにわざと本文と同一語句を使って受験生を誘導しているひっかけの選択肢が多く潜んでいることを知っておいてください。

逆に正解の選択肢は本文と同一語句は使わないことが多いのです。なぜ作成者はわざわざ本文と同一語句を使うのを避けて、別の語句に言い換えるのでしょうか？ それは、長文読解問題を作成する際に、正解の選択肢に本文と同一語句を使えば、たとえ長文の内容が把握できていない受験生であっても、正解にたどり着くことになりかねないからです。

そこで、作成者たちは、そんな読解力がない受験生に正解を見抜きにくくする(ノイズ)ため、長文の中に出てきた「同一語句」は避けて、「同意語」「類義語」「反意語」などを使い、正解の選択肢を作成することが多くなるというわけなのです。ということは、正解の選択肢にたどり着くためには、英単語を暗記する際にふだんから、日本語訳だけを暗記するのではなく、同意語・類義語・反意語なども一緒に暗記することが大切になってくるわけです。

【パターン②】 本文中の語句を強引につなぐ

ここでは、本文中の語句を強引につないだり、文の構造を変えたりすることによって、本文の内容とずれたひっかけの選択肢が作られることがある、ということ学習しましょう。

まず、本文中の語句を強引につなぐとは、どういうことでしょうか？それは、本文に出てくる語句を適当につないで、本文とは無関係の英文をでっち上げることです。

記号を使って説明しましょう。例えば、本文中に「A is B」(AはBである)と書かれているのに選択肢では、「A is C」(AはCである)、となっている場合はひっかけですね。AもBもCも本文中に使われている語句の場合、急いで取りかかると読み違えてしまい、ひっかかってしまいます。

次に「文の構造を変える」パターンをみてみましょう。以下の2つの文が一致するかしないか考えてみてください。

① I found the book easy.

② I found the easy book.

①は第5文型(SVOC)の文です。find OCで「OがCとわかる、気づく」という意味ですから、①の文は「私はその本が簡単だとわかった(その本を読んでみたら易しかった)」という意味ですね。

一方、②は第3文型(SVO)の文です。find Oで「Oを見つける、発見する」という意味ですから、②の文は「私はその易しい本を発見した」という意味です。これは明らかに一致しません。

このように本文中の語句を強引につないだり、文の構造を変えたりすることによって、本文とは別の意味の英文の選択肢が作成されることがあることを覚えておきましょう。

なお、このような問題に対処するためには、ふだんから、英文法をしつかりと学習しておく必要があります。単語の意味を適当につないで訳していると、本文中の語句をつないで作成された選択肢のワナを見抜くことはできません。

【パターン③】 数量表現で紛らわしくする

共通テストをはじめ、大学入試問題では数字（数値）を使った問題がよく出題されます。ここで注意したいのは、「原則として本文に書かれた数字がそのまま正解になることはほとんどない」ということです。なぜなら、本文と同一の数字が正解であれば、英文を読んでいない受験生でも容易に正解にたどり着くことになってしまうからです。

ですから、もし本文と同一の数字が選択肢に入っていたら、「あやしい」と疑ったほうがよいでしょう。

具体例を示します。本文と一致するのはどちらでしょうか？

本文 Their number has decreased to 20%.

選択肢 ① They have decreased by 20%in number.

② They have decreased by 80%in number.

20%という同じ数字に目がいきつてしまい、①を選びたくなりますが、これはひっかけの選択肢です。なぜなら、前置詞が違いますね。本文は「到達を表す to」が使われているから、「その数字は20%にまで下がった」という意味です。しかし、①の選択肢は「差を表す by」が使われているから、「20%分下がった」という意味です。ゆえに本文とは一致しません。本文と同一の数字には注意しましょう。

②の選択肢はどうでしょうか。これも「差を表す by」が使われているから、「80%分下がった」という意味です。「80%分下がった」＝「20%にまで下がった」ということですから、②が正解となります。グラフに表してみましょう。

この to と by を使った問題は非常に多いので要注意です。

【パターン④】 程度を操作する

ひっかけの選択肢を作る際に、多く用いられる手段として「程度を操作して内容を変える」というものがあります。例えば、次の2つの英文を比べて、表す内容が一致するかしないか考えてください。

- ① There are few students in my class.
- ② There are no students in my class.

①の **few** は「ほとんど…ない」という意味ですから「私のクラスには生徒がほとんどいない」という意味です。一方、②は **no** ですから「私のクラスには生徒が誰もいない」という意味ですね。このように、**few** (ほとんどない) 【準否定】と **no** (まったくない) 【全否定】は一致しません。

では次の2つの文章はどうでしょうか、意味が一致するか、考えてみてください。

- ③ He is often late.
- ④ He is always late.

often は頻度 (つまり「回数」) を表す副詞で、③は「彼はしょっちゅう遅刻する」という意味です。数字に直すと「10回中7~8回は遅刻する」くらいの意味です。一方、**always** も頻度を表す副詞で、④は「彼は常に遅刻する」という意味です。数字に直すと「10回中10回遅刻する」という意味です。ということは、この2つの文の内容は一致しませんね。

同じく頻度を表す副詞には、**seldom**「めったに…ない」【準否定】と **never**「一度も…ない」【全否定】がありますが、この2つも一致しませんね。

このように、**always** のような「限定度合いの強い語」を使って程度を操作して、内容を変えたひっかけの選択肢が作られることが多いということを知っておきましょう。

さらに **all**「すべての」、**every**「すべての」、**always**「いつも」、**necessarily**「(否定文で)必ずしも…ではない」、**quite**「まったく」、**perfectly**「完全に」、**completely**「完全に」、**wholly**「すっかり」などは、全肯定、全否定、部分否定のいずれにあたるのかを、しっかり判別できるようにしておいてください。

【パターン⑤】 「時」をずらす

ひっかけの選択肢の典型的な例として「時」をずらす、というものがあります。「現在と過去」とか、「現在完了と過去完了」とか、わかりやすいものなら気づきやすいのですが、ここではわかりにくいものを挙げてみます。下の2文の表す内容が一致するかしないか考えてみてください。

- ① He moved to Tokyo ten years ago, and he still lives there.
- ② He has lived in Tokyo for ten years.

①は「10年前に東京に引っ越して、今もそこで暮らしている」という意味ですね。②は現在完了で「10年間東京に暮らしている」という意味ですから、この2つの文の内容は一致します。では次の2つの文はどうでしょうか？

- ③ He used to be rich.
- ④ He is not rich now.

used to Vは「かつてVした、Vしたものだった」という過去の状態や習慣を表す助動詞です。そして、大事な点は「かつてVした(が、今は違う)」という太字の意味が含まれていることです。③「彼はかつては金持ちだった→今はそうではない」と、④「彼は今は金持ちではない」は内容が一致しますね。

次に「仮定法」の文で、一致するかしないか考えてみてください。

- ⑤ As I was rich, I traveled around the world.
- ⑥ If I were rich, I could travel around the world.

この2つの文は一致しません。⑤は「私はお金持ちだったので、世界一周旅行をした」という過去の事実を述べています。⑥は「仮定法過去」の文です。if節の動詞がwereになっていることに気づきましょう。主節の動詞could travelから、一見すると過去の話に見えますが、「仮定法過去」の内容は「現在」の話でしたね。⑥は「(今) お金持ちならば、世界一周旅行できるのに」という「願望」を表しています。さらにもう1組考えてみましょう。

- ⑦ If I were rich, I could travel around the world.
- ⑧ As I am not rich, I cannot travel around the world.

この2つの文は一致します。「仮定法」は「ありえないこと」や「事実と反対のこと」を表す表現でしたね。⑦の「(今) お金持ちならば、世界一周旅行できるのに」を、否定の **not** を使って述べた文章⑧の「今、お金持ちではないので、世界一周旅行できない」です。

以上のように内容一致問題や英問英答問題では、本文の「時」と設問の「時」が一致しているかを特に強く意識するように心がけてください。

【パターン⑥】 比較の向きや対象を操作する

比較表現が出てきて、頭の中がごちゃごちゃしてきたら、等号 (=) や不等号 (<) (>) をイメージするとよいでしょう。ちょっと練習をしましょう。以下の2つの文はどちらが本文と一致するのでしょうか？

- 本文 **Book A is less expensive than book B.**
選択肢 ① **Book B is cheaper than book A.**
 ② **Book B is more expensive than book A.**

本文が「本Aの値段<本Bの値段」という意味ですね。①は「本Bの値段<本Aの値段」で、②は「本Bの値段>本Aの値段」ですから、②が一致します。ここまでは比較のおさらいでした。

【パターン⑦】 因果関係を変える

因果関係とは「原因」と「結果」の関係のことです。この因果関係を変えて、ひっかけの選択肢が作られることがあります。

例えば、本文には「AならばBだ」と書いてあるのに選択肢には因果関係をひっくり返して「BならばAだ」と書いてあったりします。あるいは、本文には「AならばBだ」と書いてあるのに選択肢には「AならばCだ」と書いてあったりします。

まずは、「因果関係が一致する」とはどういうことか、具体例で確認してみましょう。次の例で、本文と一致するのは①～③のどれでしょうか？

- 本文 He said nothing, because he knew the truth.
選択肢 ① He knew the truth, so he said nothing.
② If he said something, he knew the truth.
③ He said nothing though he knew the truth.

本文は「彼は何も言わなかった、なぜなら真実を知っていたからだ」という意味です。つまり「真実を知っていた」が「原因」で何も言わなかったが「結果」ですね。①は「彼は真実を知っていた、だから何も言わなかった」という意味です。「原因：真実を知っていた」→「結果：何も言わなかった」ですから本文と一致しますね。では②はどうでしょう？ ②は「もし彼が何か言ったのなら、彼は真実を知っていた（ことになる）」という意味です。本文の因果関係は、ここでは成立していませんね。③は「彼は何も言わなかった、真実を知っていたというのに」という意味です。「因果関係」を変えるひっかけには、「接続詞」が大活躍します。接続詞1つで因果関係を逆にしたり、内容をまったく変えてしまうことが多々あります。この具体例は「接続詞」の持つ力の例として挙げました。覚えておいてください。

では次の問題はどうか、本文と一致する文を2つ選んでください。

- 本文 He was fired, because he was lazy.
具体例 ① His dismissal* resulted from his laziness.
② His dismissal resulted in his laziness.
③ His laziness resulted from his dismissal.
④ His laziness resulted in his dismissal. *dismissal 解雇

本文は、「彼は怠惰なので解雇された」という意味ですね。この文には「原因：怠惰」→「結果：解雇」という因果関係がありますね。

次に **result** という動詞の使い方を確認しましょう。この動詞は後ろにくる前置詞によって意味が変わる動詞です。

A result from B	A という [結果] は B [原因] から生じる
= B result in A	B [原因] は A という [結果] になる

これにあてはめて考えると、①「彼の解雇は彼の怠惰から生じた」と、④「彼の怠惰は彼の解雇という結果になった」が正解とわかります。②「彼の解雇は彼の怠惰という結果になった」と③「彼の怠惰は彼の解雇から生じた」は因果関係を逆にしたひっかけの選択肢なのです。

【パターン⑧】 多義語を使う

多義語とは「1つの単語に大きく異なる意味を複数持つ単語」のことです。多義語を異なる意味で用いることによって、ひっかけの選択肢が作られることがあるのを知っておきましょう。以下の問題を見てください。

《問題》

以下の文の下線部と最も近い意味で同じ単語が使われているものを、①～④の中から1つ選びなさい。なお、単数、複数、時制などは無視してよい。

In artistic terms, the film was revolutionary.

- ① In terms of customer satisfaction, the policy cannot be criticized.
- ② The company's prospects look good in the long term.
- ③ If I agree to do this it will be on my own terms.
- ④ They were barely on speaking terms.

まず、訳を確認してみましょう。

(訳)

芸術的な意味で、この映画は革命的である。

- ① 顧客の満足という点で、この政策は批判の余地がない。
- ② 会社の見通しは長期的にはよいように思われる。
- ③ もし私がこれをすることに同意するとしたら、それは私の条件どおりになるだろう。
- ④ 彼らはただ話をするだけの間柄である。

(問題の) in～terms = (①の) in terms of～で、「～の点で、～の観点から」という意味です。これが正解ですね。②は「期間」の意味、③の on one's own terms は「～の条件どおりで」、④の be on…terms with ～は「～とは…の間柄だ [関係だ]」の意味です。もう1題練習してみましょう。

《問題》

以下の文の下線部と最も近い意味で同じ単語が使われているものを、①～④の中から1つ選びなさい。

The explosion had covered the town with a fine layer of ash.

- ① The restaurant was chosen for its good food and fine wine.
- ② The paint comes out of the can in a fine spray.
- ③ If you want to use cheese instead of pork, that's fine.
- ④ Margaret is fine and sends you her love and best wishes.

(訳)

その爆発はその町を細かい灰の層で覆っていた。

- ① そのレストランはよい料理と素晴らしいワインを理由に選ばれた。
- ② その塗料は細かい噴霧の状態です。
- ③ 豚肉の代わりにチーズを使いたいのなら、それでいいよ。
- ④ マーガレットは元気で、あなたに愛している、よろしくと伝えてと言っていたよ。

fine も多義語でいろんな意味があります。設問文の **fine** は「細かい」という意味です。①は「素晴らしい」、②「細かい」、③「よい」、④「元気な」ですから②が正解ですね。

この例からわかるように単語の意味はあくまでも「文脈」で決まります。自分が暗記している語義を強引に当てはめるのではなく、文脈に応じて臨機応変に対応できる柔軟性をもつように心がけましょう。

《空所補充問題》

- 1 空所の前後の語(句) & 文脈から文法的・内容的に答えを予想する
(手がかりを見つける)
- 2 1と選択肢を見比べて正解を導き出す

《strategy》

まず、一番始めに確認すべきことは、選択肢内に品詞・語形の違いがあるかどうかである。違いがある場合は、空所の文法上の役割が何なのかを考えて選択肢を絞る。その後、イディオムやコロケーションで決まるかを判断し、決まらなければ文脈判断となる。

大切なことは、空所に出会ったら、出来る限り自分でどんな内容が入るのかを文法的・意味的観点から予想して、それと選択肢を比べて解答することである。 選択肢 vs 選択肢の解法はなるべく避けること。

《パラフレーズ問題》

- 1 知識問題 ⇒ 語彙・語法、イディオム、構文の知識を問う問題
- 2 文脈から推理
↳ 文と文の関係
= 置き換え、抽象(⇔具体)、対比、因果関係、並列・追加

《strategy》

パラフレーズ問題とは、下線部言い換え問題のことである。問題パターンとしては主に2つで、単なる知識問題か、文脈から推測して解答する問題である。文脈から推測といっても、「文脈」という言葉の曖昧さからピンとこないという人もいるだろう。上記で示したように「文脈」=「置き換え、抽象(⇔具体)、対比、因果関係、並列・追加」と考えれば推測しやすくなるだろう。

— MEMO —

3 文法・語法・イディオム問題

解法

- ◇ 所要時間は 分
- ◇ 先に に目を通し、問われている を特定する
- ◇ 最後に がないか確認する

DETAILS

〈出題内容〉

問題の難易度は標準だが、出題範囲が広く、主要英文法だけではなく、語法や熟語といった細かい範囲まで学習する必要がある。一般入試では単独の文法問題は基本的に出題されないが、公募推薦では例年、全体の約4割と大きな配点を占め、文法も合否に大きく関わるためしっかり取り組んでおこう。

〈対策〉

文法問題は、広く浅く文法理解を問う問題を出しており、文法問題1問につき、基本的に1つのポイントが問われているため、どの分野が問われているかは明確である。したがって、まずは選択肢を見て、問われている文法分野を特定してから答えを出そう。例えば選択肢に **few, little** などがあれば形容詞の範囲と推測し、対応する名詞との組み合わせに注目するといったやり方である。基本的な問題が出題されているといっても、その文法のポイントや知識を取得していないと解答できないため、文法知識は参考書を利用してもれなく覚えておこう。まずは分野別に文法問題が載っている参考書を解き、その後ランダム形式の問題集などを利用して、文法、語法、熟語を総合的に問う問題を大量に解こう。時間がある限り、他の選択肢がなぜ不正解なのかを確認するために消去法で解くこと。文法問題はあまり時間を掛けられないが、ケアレスミスのないよう気をつけよう。

4 会話文問題

解法 … 基本的に **空所補充** 問題と同じ

◇ 所要時間は **10** 分

◇ 空所の前後の語(句)&文脈から **文法** 的・**内容** 的に答えを予想する(解答の **手がかり** を見つける)

◇ **指示語** または **省略** は解答の根拠となることが多いので、対応箇所の見極めが重要

◇ 会話文特有の対応表現&頻出フレーズの暗記

DETAILS

〈出題内容〉

問題の難易度はやや易～標準で、少し長めの英文で、文章全体の流れの把握と会話文のポイントを最低限理解しているかを問う問題となっている。そのため、会話特有の表現を多く覚えるといった対策よりも、全体の主旨を理解する読み方の訓練と、受験英語の会話文のポイントを押さえれば、十分得点できる。

〈対策〉

空所の前後に疑問文が絡む問題があれば、質問と応答の流れが適切かを確認する。Do you ~? など一般的な疑問文では Yes / No やそれに相当する語から応答が始まるし、5W1H なら具体的な返答から始まる。

答えの根拠の大半は次の文章にくる。空所の直後の文章はしっかり読むこと。その際、新情報(初めて登場した単語)がある場合、旧情報(代名詞、省略)がある場合には答えの根拠となるといってよい。それぞれの役割を利用して、空所に入る選択肢を予想して選択肢に進もう。

練習題材としては、関西大学や関西学院大学の会話文で解く練習を試みよう。(p.42 参照)

◎ 呼応関係による、動詞の形・代名詞(指示語)の確認

会話文では相手の発言に呼応して、S(代名詞) + V (beV / 助動詞 / do / have) という形の文を発することが頻繁にある。その場合、代名詞や動詞の形が対応しなければならない。

<例> “Did the fried rice taste as delicious as you expected?”

- a. Yes, it has.
- b. It certainly did.
- c. No, it wasn't.
- d. Of course, I did.

<解説> 選択肢は、いずれも be 動詞, do, have の変化形で終わっていることから、前の文と呼応して S(代名詞) + V (beV / 助動詞 / do) が発せられているとわかる。従って、この文の主語は、the fried rice を指す it、動詞は、一般動詞過去形の did でなければならないので、答えは b。

◎ 省略の説明がつくか確認

会話文では、言うまでもない又は文脈上明白な部分を省略するが、勝手に省略をしているわけではない。従って、文構造が成立していない場合は、特定の慣用表現以外は、次のいずれかでなければならない。

(a) 相手が既に述べた部分の反復を避け、相手の言葉への反応として、重要な情報の部分だけを述べるために生じた省略。

[名詞(句・節)]、[形容詞(句・節)]、[副詞(句・節)]だけが発言されているか、beV, 助動詞, do, have の後が省略されている。

※ 相手が既に述べた表現を補って意味をなす文にならないといけない。

A :

B : By tomorrow morning. So wait till then.

1. When will you return that book?
2. How long are you going to borrow that video?
3. Do you want me to wait?
4. What shall I do?

選択肢 1 の文と対応させれば **By tomorrow morning** は、**I will return it by tomorrow morning** となって意味が通る。

<注意> 前で発言されていない助動詞を用いる場合、助動詞の後の **be** や **have** は省略できない。助動詞+**be**、助動詞+**have** となる。

“Is she his mother?” “No, she can’t be.”

“Has he arrived there?” “He should have.”

(b) 状況的に明白な **S / S+beV / S+助動詞** の省略

※ この場合、省略される主語は、**I / We / You / 話題** になっている人・事 / 状況の **It** のいずれか。

A : “How about going to the movie?”

B : “Sounds good.”

Sounds good は、**It sounds good.** (それはいいね) の **It** が省略されたもの。

◎ 注意すべき呼応表現

(a) 命令文に対応する場合、**I will** を用いる。

“Please do it at once.”

“OK. I will.”

(b) 反応疑問：相手の言葉に反応して「そうなんですか？／本当なの？」という気持ちで使う。

A : “S V ~.” 「S V ~なんだ」

B : “(S V ~,) V S ?” 「そうなんですか？」

※ 付加疑問と違い、A の発言が肯定文なら B も肯定形の疑問になり、A の発言が否定文なら、B の発言も否定文になる。

A : “I met Ohma yesterday.” 「昨日、大間に会ったよ」

B : “Oh, (you met him,) did you?” 「えっ、マジで？」

※ この場合、**you met him** は A の発言と同じであるために、省略され **Did you?** だけになることもある。

(c) Yes, No という答えに関する注意

- ① 疑問詞で始まる疑問文に対しては、Yes, No で答えられない。
- ② Yes = 「はい」、No = 「いいえ」という訳語とは限らない。

Yes : 「前文の SV を用いれば、肯定文だ」という宣言
No : 「前文の SV を用いれば、否定文だ」という宣言

A : “Have you finished your homework?” 「宿題終わった？」

B : “Yes, I have.” 「うん、終わったよ」

“No, I haven’t.” 「いや、終わってないよ」

A : “Haven’t you finished your homework?” 「宿題終わってないの？」

B : “Yes, I have.” 「いや、終わったよ」

“No, I haven’t.” 「うん、終わってないんだ」

※ Have you finished ~? で質問されようと、
Haven’t you finished ~? で質問されようと、
Yes は I have finished ~. という趣旨の返事の宣言であり、
No は I haven’t finished ~. という趣旨の返事の宣言である。
従って、Yes, I haven’t. や No, I have. という返事は存在しない。

◎ 会話文特有の対応表現&頻出フレーズ

- (1) 「ありがとう」

Thank you. / That’s (very) kind of you. / It’s (very) kind of you. /
I really appreciate it.

- (2) 「とにかく、ありがとう」

相手に何かを依頼したのだが、あいにく、相手が依頼に応えられない
時に使う。

Thank you just the same. / Thank you all the same. /
Thank you anyway.

A : “Would you show me the way to the station?”

「駅への行き方を教えていただけませんか？」

B : “I’m sorry, but I’m a stranger here.”

「すみません。この辺りの者ではないもので。」

A : “Oh, I see. Thank you just the same.”

「そうですか。とにかく、ありがとうございました。」

(3) 「どういたしまして」

Thank you に対して使う表現

You are welcome. / Not at all. / Don’t mention it. / That’s all right. /

The pleasure is mine. / (It’s) my pleasure. / It’s a pleasure.

(4) 「はいどうぞ」

何かを差し出して

Here you are. / There you are. / There you go.

(5) 「さあどうぞ」

行為、発言を促して

Go (right) ahead.

A : “May I borrow your pen?” 「ペンを借りてもいいかい？」

B : “Sure. Go right ahead.” 「いいよ。さあどうぞ。」

(6) 「それはお気の毒に / それは困った / それは残念だ」

That’s too bad.

(7) 「どうかしたの？」

相手を気遣って

What’s the matter (with you)?

(8) 「それがどうしたと言うんだ」

反語的に使う。「そんなことどうでもいいだろ。」という気持ち

What does it matter?

(9) 「～してもらえますか」 - 「はい、いいですよ」

Would you mind ~ing? / Do you mind ~ing?

No, I don't. / Not at all. / Of course not. / Certainly not.

A : Would you mind opening the window?

「窓を開けてもらえますか？」

B : No, of course not. 「はい、いいですよ。」

(10) 「～してもいいですか」 - 「はい、いいですよ」

Would you mind my ~ing? / Do you mind my ~ing?

Would you mind if I ~? / Do you mind if I ~?

No, I don't. / Not at all. / Of course not. / Certainly not.

A : Would / Do you mind my smoking here?

「ここでタバコを吸ってもいい？」

Would you mind if I smoked (smoke) here?

Do you mind if I smoke here?

B : No, not at all. 「はい、いいですよ。」

※ Would で始めれば、if 節は仮定法過去時制、Do で始めれば、if 節は現在時制であるが、略式で、Would で始めても if 節を現在時制で言うこともある。

(11) 「～してもらえませんか」

I wonder if you could / would ~.

I'm wondering if you could / would ~.

I was wondering if you could / would ~.

I would appreciate it if you could / would ~.

(12) 「～してはどうですか」

Why don't you V 原形~? / Why don't we V 原形~?

Why not V 原形~? / How about ~ing? / What about ~ing?

What do you say to ~ing?

(13) 「いいですよ / かしこまりました」など

依頼文、勧誘文、提案文、許可を求める文に対する返事として

Sure. / Surely. / Certainly. / By all means.

依頼文、勧誘文、提案文に対する返事として

I'm glad to. / I'd be glad to. / I'm delighted to. / I'd be delighted to. /

With pleasure. / Why not?

勧誘文、提案文に対する返事として

I'd like to. / I'd love to.

Yes, let's.

(14) 「そうしたいのですが」

依頼文、勧誘文、提案文に対する断りの返事として

I wish I could.

(15) 「それはいいね」

相手の考え、提案を肯定する時

(It / That) sounds good / great.

(16) 「そう思います」

I think so.

I hope so. [それが望ましい事態だという主観をこめて]

I'm afraid so. [それが望ましくない事態だという主観をこめて]

※ so は、相手の発言文と対応する肯定文の代用。

A : "I'm going on a picnic. Will it be fine?"

「ピクニックに行くんだけど、晴れるかな？」

B : "I hope so." [=I hope it will be fine.]

「晴れると思うよ。」

A : "I'm going on a picnic, but I wonder if it will rain."

「ピクニックに行くんだけど、雨降るかな。」

B : "I'm afraid so." [=I'm afraid it will rain.]

「降ると思うよ」

(17) 「そうは思いません」

I think not. / I don't think so.

I hope not. [それが望ましい事態だという主観をこめて]

I'm afraid not. [それが望ましくない事態だという主観をこめて]

※ not は、相手の発言文と対応する否定文の代用。

A : "I'm going on a picnic, but I wonder if it will rain?"

「ピクニックに行くんだけど、雨降るかな？」

B : "I hope not." [=I hope it will not rain.]

「降らないと思うよ。」

A : "I'm going on a picnic. Will it be fine?"

「ピクニックに行くんだけど、晴れるかな？」

B : "I'm afraid not." [=I'm afraid it will not be fine.]

「晴れないと思うよ。」

※ I think not. ... ○

I don't think so. ... ○

I don't hope so. ... ×

I'm not afraid so. ... ×

(18) 「時間を教えてもらえますか？」

Do you have the time?

※ この意味の場合、time に the がついていることに注意。

(19) 「もうおいとましてくては」

I must be on the way.

(20) 「～によろしく伝えてください」

Say hello to～. / Give my (best / kind) regards to～. / Remember me to～.

(21) 「さようなら」

Goodbye. / See you. / See you later. / See you soon. / See you again. / So long.

(22) 「どちらさまですか？」 (電話で)

Who is this (, please)? / Who is that (, please)?

Who is calling (, please)? / Who is speaking (, please)?

(23) 「こちら～です」

This is ～ (speaking). / ～ speaking.

(24) 「そちらは～さんですか？」

Is this ～? / Is that ～?

- (25) 「少々お待ちください」
Wait (a moment / a minute / a second).
Hold on (a moment / a minute / a second).
Hang on (a moment / a minute / a second).
- (26) 「間違い電話です」
You have the wrong number.
- (27) 「電話を貸していただけませんか」(他人の家で)
May I use your telephone?
※ use の代わりに borrow は使えない。
- (28) 「話し中です」(電話がつながらなかった時に)
The line is busy. / The phone is busy.
- (29) 「行きます」(相手の所に来ないかと誘われて)
I will come. / I'd like to come.
※ go ではないので注意。
- (30) 「ステーキの焼き具合はどういたしましょうか？」
How would you like your steak?
「コーヒーはどのようにいたしましょうか？」
How would you like your coffee?
A : “How would you like your coffee?”
「コーヒーはどのようにしますか？」
B : “I'd like mine black.” 「ブラックをお願いします。」
- (31) 「仕方がなかったんだ」
I couldn't help it.
※ この help は「避ける」の意。
- (32) 「最高だったよ」
It couldn't have been better.
※ 「それ以上すばらしくはなり得なかったでしょう。→ 最高だった。」

- (33) 「君にも見せたかったよ」
You should have seen it.
- (34) 「～を車で迎えに行く」
pick 人 up=collect 人
- (35) 「大きなお世話だ」
Mind your own business / (It's) none of your business.
- (36) 「おくつろぎ下さい」
Make yourself at home.
- (37) 「(食べ物、飲み物) をご自由にお取り下さい」
Help yourself to ～.
- (38) 「なぜ～か」
How come S V～?
“How come you said such a thing?”
「何でそんなこと言ったの？」
- (39) 「もう一度言ってもらえますか？」
[相手の言葉が聞き取れなかった場合に]
I beg your pardon? / Pardon me? / Pardon? / Sorry?
- (40) 「ケースバイケースです / 時と場合によります」
It depends.

<その他>

That's it. 「それでおしまいだ。 / それが問題だ。 / その通りだ。」

You got it. 「その通りだ。 / それでかまわないよ。」

You said it. 「その通りだ。」

I got it. 「わかりました。」

make it 「成功する/間に合う/待ち合わせる/来る/出席する」

How's it going? 「ごきげんいかがですか？」

have got=have / have got to～=have to～

— MEMO —

🍏 Let's Try 🍏

～下線部言い換え問題～

Some famous people have been seen crying in public. Athletes sometimes have tears in their eyes after an important sport event. And some astronauts have ⁽¹⁾at times been overcome by their emotions. A test pilot once cried like a baby after a flight. While he was testing a new plane, a lot of stress or tension built up inside him. When he had landed safely and knew the flight was a success, he began to “⁽²⁾let loose” and cry. When people let loose, they unlock some of the feelings they have been keeping inside them for a while. Keeping feelings inside can cause tension to build up. By crying, a person releases some of this tension and becomes more relaxed.

1. 下線部(1) at times の意味として最も適切なものを選択肢から選び、その記号をマークせよ。
 - A. every now and then
 - B. all of sudden
 - C. more or less
 - D. one after another

2. 下線部(2) “let loose” の意味として最も適切なものを選択肢から選び、その記号をマークせよ。
 - A. to express emotions or feelings
 - B. to cry in public
 - C. to let built-up feelings go
 - D. to understand the causes of crying

<全訳例>

有名な人の中には、人前で泣いている姿を見せたがるものがある。運動選手は、時々、重要な大会の後で、涙を目に浮かべる。宇宙飛行士は、時々、感極まって泣いてしまうことがある。あるテスト飛行士は、かつて、飛行の後で、赤ん坊のように泣いた。新型の飛行機をテスト飛行させている間に、ストレスと緊張がたまっていたのである。無事に着陸して、テスト飛行が成功したと知ると、緊張が解けて、泣き始めたのだ。緊張が解けると、しばらくの間心の中にしまいこまれていた感情の一部が放たれる。感情を心にしまいこんでいると、ストレスがたまることがある。泣くことによって、この緊張の一部を放ち、リラックスするのである。

1.

- A. 時々
- B. 突然
- C. ほとんど
- D. 次々と

2.

- A. 感情を表現する
- B. 人前で泣く
- C. ため込んだ感情を解放する
- D. 泣いた原因を理解する

～空所補充問題～

Here are the hard, dry facts: yes, drinking water is a good thing, (1) better than buying soft drinks, or liquid candy, as experts like to call it. And almost all public drinking water in America is so good (2) nobody needs to import a single bottle from Italy or France. Meanwhile, if you choose to get your recommended eight glasses a day from (3) water, you could spend up to \$ 1,400 annually. The same amount of tap water would (4) about 49 cents.

注 tap water 水道水

1. 空所 (1) に入る最も適切なものを選択肢から選び, その記号をマークせよ。
A. enough B. much C. too D. very
2. 空所 (2) に入る最も適切なものを選択肢から選び, その記号をマークせよ。
A. because B. but C. if D. that
3. 空所 (3) に入る最も適切なものを選択肢から選び, その記号をマークせよ。
A. bottled B. cold C. drinking D. running
4. 空所 (4) に入る最も適切なものを選択肢から選び, その記号をマークせよ。
A. account B. cost C. pay D. spend

<全訳例>

ここに動かしがたい、ありのままの事実がある。確かに水を飲むのは体に良いことである。清涼飲料水、あるいは専門家の好む言い方をすれば、液状の飴を買うよりはるかに体に良い。そしてイタリアやフランスからペットボトルを一本たりとも輸入する必要もないほど、アメリカのほぼすべての公共の飲料水は優れている。また一方では、一日あたりに推奨されるコップ8杯分の水をペットボトル入りの水から得ようとすれば、年間で1400ドルもかかってしまうだろう。同じ量の水道水なら49セントほどで済む。

- 解答 1. B 文法：比較の「差」を表す表現 much 『はるかに、ずっと』
2. D 文法：so … that S V ～構文
3. A 文脈で判断
4. B 語法：cost の語法

～会話文問題～

次の会話文を読み、空所に入る最も適切なものを選択肢から選び、その記号をマークせよ。

(Takehiro is attending the EF Language School in Boston with students from all over the world. After struggling for one week in his class, he goes to the Placement Advisor's Office.)

Linda: Good afternoon.

Takehiro: (Standing at the door) Hello, I'm Takehiro Oma. I'm sorry to disturb you.

Linda: You're not. Please come in and sit down. (1)

Takehiro: Well, you see, this is the problem. When I arrived last week, I was placed in the most advanced class, but I'm not at all happy there. I want to be transferred to a lower class as soon as possible.

Linda: Oh dear. Just let me check your score in the test you took last Monday. Let me see now. Oh, but your test performance was really high. Those kinds of results mean that you belong in the top group of our new students. (2) In fact, it only means that you're exactly where you're meant to be.

Takehiro: But I don't understand that at all. I have a lot of problems with speaking in English as well as listening to it. That test last week focused mainly on reading and writing skills so in fact (3)

Linda: (Looking through some papers) As (4) as I can tell from the teachers' reports, you seem to be following all the classes without any major trouble. They do note that you tend to be on the quiet side, though.

Takehiro: (Almost in tears) I'm the only Japanese student in the class, you see, and I've lost all my confidence being with those fluent students from European countries. I just don't have the same verbal skills as them. They can speak in a really spontaneous way and (5) they have a lot more background cultural knowledge than I do. I can't (6) them and I'm finding it increasingly difficult to get to sleep over the stress.

- (1) A. How can I help you?
B. I'm on your side.
C. I'm tied up right now.
D. Will you do me a favor?
- (2) A. You are probably in the wrong class.
B. You are very considerate of all involved.
C. You need to take the test once again.
D. You should be proud of yourself.
- (3) A. that score does not show the whole picture about my English.
B. that score I got was quite disappointing for the teachers here.
C. that score is something that doesn't count in my country.
D. that score shows my advanced presentation skills in English.
- (4) A. soon
B. far
C. well
D. good
- (5) A. provided that
B. in order that
C. now that
D. on top of that
- (6) A. keep up with
B. come up with
C. break up with
D. put up with

<全訳例>

(タケヒロは世界中からやって来た学生たちと共にボストンの EF 語学学校に通っている。自分のクラスで 1 週間努力した後で、タケヒロはクラス分けアドバイザーの部屋に行く)

リンダ：こんにちは。

タケヒロ：(ドアのところに立ったままで) こんにちは。オオマ=タケヒロです。お邪魔して申し訳ありません。

リンダ：そんなことはないですよ。どうぞ入って座ってください。どんなご用事でしょうか。

タケヒロ：ええっと、あの、困っているんです。先週ここに来て、私は一番上、のクラスに入れられました。でも少しも楽しくないのです。できるだけ早くもっと下のクラスへ移してもらいたいです。

リンダ：あらまあ。先週の月曜日に受けた試験の点をちょっと調べさせてください。さて、拝見しましょうか。あら、でも、あなたの成績は実際高かったですよ。こういう結果だということは、新人生の中ではあなたがトップのグループに入ることですよ。誇りに思ふべきです。実際、あなたはちょうどいるべきところにいるということですね。

タケヒロ：でも、私にはそれが全くわかりません。私は、英語のリスニングだけじゃなくスピーキングにもいろいろと問題があるのです。先週のあの試験は主に読解と作文のスキルが中心でした。だから。実際、その得点は、私の英語力の全体像を表していません。

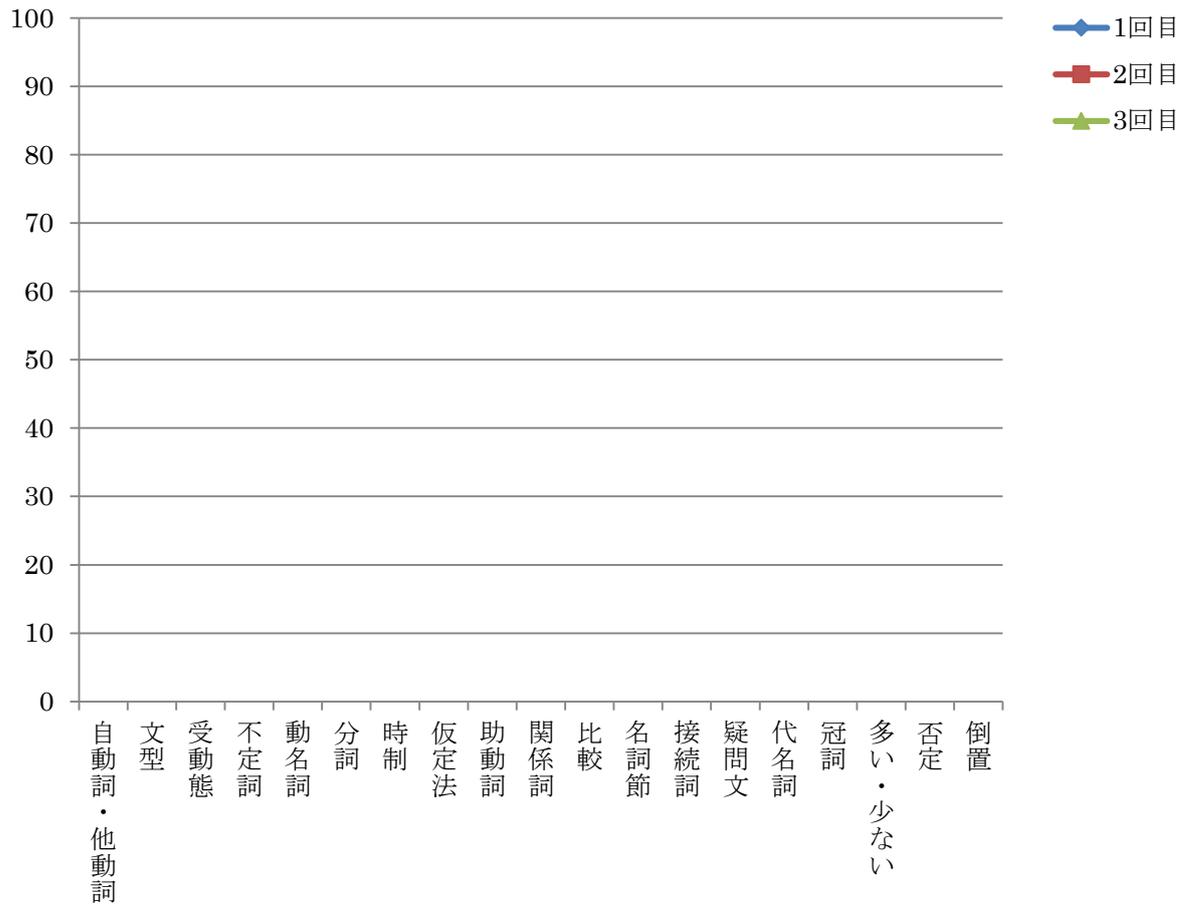
リンダ：(いくらかの書類にさっと眼を通しながら) 先生方の報告書から私が見る限り、さほど苦勞もなく、あなたはすべての授業について行っていると思われます。でも、あなたは発言を控えがちであると先生たちは記しています。

タケヒロ：(ほとんど涙を浮かべそうになって) 私はクラスでひとりだけの日本人学生です。ヨーロッパの国々から来た流暢な学生たちと一緒にいて自信を全くなくしました。彼らと同じような言葉のスキルを私は持っていないのです。彼らは本当に自然に話すことができるし、それに、私よりもはるかに多くの背景となる文化的知識を持っています。私は彼らについて行くことができません。ストレスで、ますます眠れなくなっています。

- (1) A. どんなご用事でしょうか。
B. 私はあなたの味方ですよ。
C. ただ今暇がありません。
D. お願いがあるのですが。
- (2) A. おそらくクラス違いです。
B. あなたは関係者全員に思いやりがあります。
C. もう一度テストを受けてください。
D. 自分を誇りに思うべきです。
- (3) A. この得点は私の英語力の全体像を表していません。
B. 私が取った得点は、ここの先生たちにとってはかなり残念なものでした。
C. この得点は、私の国では重要ではないものなんです。
D. この得点は、私の英語での高度なプレゼンテーション能力を示しています。
- (4) A. ～するとすぐに
B. ～する限り
C. ～同様に
D. ～同然
- (5) A. ～という条件で
B. ～する目的で
C. 今や～なので
D. その上、それに加えて
- (6) A. ～に遅れずについていく
B. ～を思いつく
C. ～と別れる
D. ～を我慢する

🍏 モチベアアップ編 🍏

～文法項目俯瞰図～



(縦軸：正答率 横軸：単元)

🍏 今からやること 🍏

～赤本に挑戦～

- ・自分で本番を意識して全力で解いて要した時間
(→「傾向と対策」で示した時間とどれだけ開きがあるかを確認し、本番までにその時間差を埋めていくことを意識して過去問演習に取り組む)

① 分 ② 分 ③ 分 ④ 分

- ・正解率を出す
(それぞれの大問ごとの出来・不出来を確認し、過去問と並行して苦手な大問の形式の練習を行う)

① / 問 ② / 問 ③ / 問

④ / 問

合格の目安：75%～

🍏 おすすめ演習題材 🍏

第1問・第2問

- ・ ロジカル英文読解基礎編 → ロジカル英文読解標準編
(こちらは余裕があれば)



You tube でクオリティの高い解説講義が見られるので、理解を深めるのにおすすめです。

- ・ 2008 年度～2020 年度 センター第6問 (本試→追試)

第3問 動画でわかる英文法 (著) 岡崎修平
英文法 POLARIS (著) 関正生

第4問 大学入試 肘井学の英語会話問題が面白いほど解ける本
関西大学、関西学院大学の過去問

その他

英文解釈 → 入門英文問題精講 (著) 竹岡広信

甲南大学が HP で公表しているサンプル問題

